

ロシア：中国首脳会談と 北東アジア経済の展望

富山県貿易・投資アドバイザー 白鳥 正明

はじめに

去る3月21～22日、プーチン大統領が北京を公式訪問して中国の胡錦濤国家主席と会談し共同声明を発表した。この中ロ首脳会談は、2005年7月の胡錦濤国家主席のロシア公式訪問に続くもので、共同声明に見るように会談の範囲は極めて広範で、今後の中ロ関係だけでなく北東アジアは勿論、広く国際政治・経済関係にも大きく影響すると思われる。本稿では、主としてロシア大統領府発表資料により、中ロ首脳会談の経過、中ロ貿易経済関係の近況、新段階に入った中ロ経済関係、ロシアの対中国エネルギー政策を概観し、北東アジア経済情勢を展望する。

ロシア・中国首脳会談と両国協力関係の経過

現在の中ロ関係は、2001年7月16日に調印された中ロ「善隣、友好、協力条約」で基本原則が示され、また両国政府・各省庁間の多くの協定で広範な分野の協力が実施されてきた。1996年から始まった両国政府首相の定期的な年次会談は両国間の全面的な関係強化を制度化したが、2005年11月3日の第10回首相会談(北京)は、行動計画の実施状況を評価し翌年度への発展を確認した共同声明を発表した。

両国の大統領と国家主席の接触も強化され、公式訪問、上海協力機構会議及びAPEC会議と年間3回以上も会談が行われてきた。2005年は4回も会談があったが、最も重要であったのは胡錦濤国家主席の6月30日から7月3日までのロシア公式訪問で、両国間の戦略的パートナーシップと協力関係を充実させる「21世紀の国際秩序に関する共同声明」が調印された。この2005年共同声明には、「善隣、友好、協力条約」に基づく2005～2008年の行動計画が示され、協力拡大に関する両国政府と省庁間の課題が定め

られた。もう一つの重要な事実は、2005年10月両国間で調印された「東部国境に関する追加条約」が批准され、40年以上も未解決であった両国間の問題が合意されたことである。

さらに、両国の大統領と国家主席並びに中央行政機関の他、立法(議会)、司法(裁判所)、その他の国家機関の協力も進められた。2005年6月、グルイズロフ下院議長が中国を訪問し、ロシア連邦議会下院と中国全人代との協力委員会規程が調印され、9月24～26日にはミロノフ上院議長が中国を訪問して両国間の議会共同委員会規程に調印した。

安全保障戦略の協議も進められ、イワノフ国防相と唐國務委員との会談が2回も行われ、2005年8月18～25日にロシア・ウラジオストク市と中国・山東半島で、初めてロシア国防軍と中国人民解放軍との共同軍事演習が実施された。

貿易関係も拡大し、2005年の両国の貿易額は291億ドルに達した。両国は2010年に600億ドルから1,000億ドルの達成を目標にしている。中国江蘇省ではロシアが参加した原子力発電所1号基の建設が完了し、石油ガス・プロジェクトの建設も進んでいる。

地域行政機関の連携も拡大し、現在100件以上の地域協力協定が締結され、ロシアの連邦構成体(共和国・地方・州)60以上が中国の各省と接触し、ロシアの連邦管区と中国各地域との連携も続き、2005年にはシベリア管区と極東管区の大統領全権代表が中国を訪問した。

・中ロ貿易経済関係の近況

(1) 2005年の中ロ貿易

ロシア連邦大統領府発表によると2005年の中ロ貿易総額は291億ドル(前年比37.1%増)、中国貿易総

額に占めるロシアの割合は1.8%から2.05%に増加した。ロシアの輸出は158.9億ドル(31%増)、輸入は132.1億ドル(45.2%増)で、ロシアの対中国貿易黒字は26.8億ドル(前年は30億ドル)であった。ロシアの輸出品は鉱物性燃料・石油・石油製品が41.3%(前年 34.5%)で、中国の石油輸入先はサウジ・アラビア(14%)、イラン(13.6%)、オマーン(13.3%)、アンゴラ(11.1%)で、これに次いでロシア(9.2%)が第5位であった。

ロシア輸出急増の要因は、全輸出の60%を占めた鉱物性燃料・石油・石油製品の急増と、中国木材需要の60%をカバーした木材・同製品の急増であるが、中国輸入木材の98%は原木で、2005年の輸入量は2,000万m³、16.2億ドルであった。鉄鋼製品も22.8%増加して17.4億ドルに達したが、高級製品(冷間・熱間圧延薄板、珪素鋼板)の増加が主因であった。

機械製品輸出は2005年に43.4%も減少し、輸出構成比も2.1%に低下(2004年5%、2003年13%、2002年20%)したが、これは中国の原子力発電所建設工事の完成で大型設備が減少し、他に大型プロジェクトがなかったためである。ロシア製機械設備の輸出は、輸出された設備の部品や小規模な機械設備に限定される傾向にある。

中国側の関心は、火力・水力・原子力発電設備、鉱業・鉱山設備、冶金工業設備、医療器械設備、自動車部品の需要に集中しているため、ロシアの先進技術取得と開発需要も続く。

以上のように、中国向け輸出急増はロシア原油輸出額の増加が主因であるが、国際価格の上昇も重要な原因であり、石油・石油製品、化学品、非鉄金属、肥料、鉄鋼製品のように輸出量が減少したのに価格上昇で輸出額が増加した商品もあった。中国向け機械技術製品の輸出減少で、ロシアの輸出構造はモノカルチャ的特色が強くなっている。

(2) 中国のロシア進出

2005年にはロシア市場の多くの部門への中国進出が目立ち始めた。ロシアの中国輸入のうち20%は機械技術製品で、中国商務部の推計ではロシア向け輸出の7%は高度技術製品グループであった。とくに急増しているのは輸送機械(153%増)のうち小型

トラックと軽乗用車で、化学品(56.1%増)、鉄鋼製品(78%増)、であったが、伝統的な消費財である繊維、衣類、玩具、靴、食品などが中国輸出品の約80%を占めていた。また、統計外のヤミ貿易も50~100億ドルもあるといわれる。

(3) 中口の投資協力

最近数年間に中口投資協力が発展し、今後の注目すべき協力形態の一つとしてロシア投資への関心が中国で顕著になっている。ロシアの各地域とビジネス界による中国からの投資誘致も強化され、中期的には大規模な投資協力も予想される。現在、中国には投資協力の拡大と2020年に向けてロシアに120億ドルを投資するという課題がある。中国商務部によると、2005年のロシア向け投資プロジェクト82件(2004年は52件)が承認された。中国の投資で実現した2005年のプロジェクト総数は657件、投下資本は3億2千万ドルで、2004年の2倍になり累積投資額は9.77億ドルになっている。中国資本が投資を優先する分野は、通信、家電製品製造、木材加工、商業不動産の建設と経営、一般食堂である。建設工事と下請工事への中国資本の誘致も増加している。2005年に締結された労働・建設下請作業契約は6.6億ドル、労働供与額は4.5億ドル(32.3%増)に達した。この労働サービスのため中国人1万8千人(2004年は1万5千人)がロシアに滞在したが、中国人労働者を受入れたのは、シベリアと極東の農業、建設、木材採取と加工、衣類縫製、その他の部門である。

(4) ロシアの中国投資

ロシア資本の中国経済への投資も並行して起きている。ロシア資本の規模は中国のロシア投資額とほぼ同額である。2005年、中国のロシア投資許可は162件、契約額は2億9,800万ドルのうち投資額は8,190万ドルであった。中国におけるロシアの投資累計は承認件数1,849件、投資額14億ドル契約のうち実行額は5億4,100万ドルで、投資先業種は、加工工業部門、化学品製造、鉱業原料加工、輸送設備製造、建設、輸送サービスの提供であった。ロシアの大企業には直接投資とともに証券投資への関心も強まっている。

新段階に入った中ロ経済関係

(1) 共同声明の経済条項

3月21日の共同声明は、総論、中国のロシア年、ロシアの中国年、国境問題、一つの中国と台湾問題、経済交流、環境保護と自然利用、戦略パートナーシップから10年、善隣友好協力協定から5年、国境地域と移民の法令順守と非常事態防止、軍事協力、国際舞台における両国の協力、という9章から構成されている。そのうち経済交流は1.貿易拡大と貿易構造の改善、2.投資協力、3.エネルギー協力、4.経済部門と地域の協力の4節から成り、その要旨は次の通りである。

1 貿易拡大と貿易構造の改善

2001年6月の善隣友好協力条約調印から5年足らずの間に、両国間の貿易は3倍に増加して300億ドルに近づいた。現段階では、中ロ貿易経済協力の根本的な効率の向上、質的に新たな内容の充実、貿易経済協力形態と方法の改善という課題が緊急で重要になっている。2010年には両国の貿易を600～800億ドルのレベルに引き上げる努力をする。今後両国の潜在力を発揮するため、貿易構造の改善、機械技術と高度テクノロジー製品の比重を増やし、貿易経済協力の質とレベルの引上げ努力を継続する。

2 投資協力

中ロ投資協力は経済の共同行動を拡大する重要なルートである。投資拡大と相互保護に関する中ロ協定は、両国投資家の法的利益保護のため重要な意義をもち、投資協力の発展を促進するだろう。投資フォーラムのメカニズムを整備し、情報交換を強化し、投資に有利な条件を創出し、インフラ施設の建設、製造工業部門、高度技術、エネルギー及び天然資源開発における両国企業間の多様な協力形態を促進する。

3 エネルギー協力

両国は戦略的パートナーシップの中心的な構成部分であるエネルギー協力が質的に新たな段階に入り、今後の経済協力の充実にとって重要な意義をもつと注目し、エネルギー分野の多様化戦略を実施する。両国のエネルギー行政機関と会社は、ロシアから中国への原油及び天然ガス供給用のパイプ

ライン・プロジェクト建設事業を活発化させる。石油・ガス資源開発及び両国の燃料エネルギー潜在力を拡大するため、両国企業への投資参加、並びに、石油・ガス精製、石油ガス化学、燃料エネルギー総合企業体に必要な機械工業の発展を含む、その他、双方に有利な形態を支援する。また、ロシアから中国への大規模な電力輸出を活発化させるため、両国の電力事業とエネルギー分野における合同プロジェクトの段階的実施への関係企業間の協力を拡大する。この分野における協力は、両国の経済成長を促進し、アジア太平洋地域と世界全体のエネルギー安全保障を強化する。

4 経済各部門と地域の協力

両国は重機械工業(水力・火力発電設備製造)、IT技術、核エネルギー、航空宇宙、自動車及び農業機械製造、鉄鋼及び非鉄金属工業、林業その他部門の協力を充実し、大規模プロジェクトを促進し、金融、運輸、特別経済地域創設、資源開発、木材・水産加工、輸送及び国境通過インフラ整備、地域間及び隣接地域の協力を促進する。

(2) 中ロの国境地域協力

前述のように、ロシア連邦構成体(共和国・地方・州)60以上が中国の地域と直接関係をもっている。地域協力の法的基礎は1997年11月10日中ロ政府間で調印されたロシア連邦構成体行政庁(政府)と中国地方政府との協力協定である。

2004年9月、プーチン大統領が陝西省西安訪問の際に中国北西部各省長とロシアの地域指導者(知事等)が会談し、国境地域の地域間協力の拡大が審議された。2005年7月、中国の胡錦涛国家主席がノボシビルスクを訪問し、シベリア連邦管区の地域指導者(知事等)と会談し地域間協力が審議された。2004年5月、中国全人代の呉邦国議長がモスクワを公式訪問した際、「中ロ国境及び地域間協力」の中ロ会議が開催され、両国の議会指導者も参加した。重要なテーマは地域の役割の引上げと中ロ経済協力の拡大であった。

ロシアの連邦議員は両国の地域間及び国境地域の中ロ協力の拡大に積極的である。2005年9月24～26日ミロノフ上院議長の中国訪問の際、中国全人代・

呉邦国議長とともに大連で開催された「地域間及び国境地域の中口協力」会議に出席した。さらに中口両国の中央政府の支持で地域の実務的な交流の拡大も目立ち、国境商業施設の建設も完了したので、国境地域の経済交流は拡大するだろう。

中口国境地域の経済活発化の前提は、国境交通インフラと通過業務の改善・最適化である。最近、アルゲン河通過橋、ブラゴエシチェンスクのアムール河橋、ザバイカル～満州里間の自動車道路検問所の建設、グロデコボ～スィフンへ間及びチタ～満州里間の貨物・旅客輸送量の拡大、ウラジオストク～スィフンへ間旅客鉄道の開設、等が進められている。

中国東北部はロシアのシベリアと極東の地方・州とのパートナー関係を拡大しつつある。同時に、ロシアの他地域も中国との経済協力関係を拡大し、伝統的な国境隣接地域の他、ロシア中央とロシア南部の地方自治体も対中国協力関係を活発化し、中国南部とくに急成長している広東省への関心が高まり、広東省もロシア市場への進出拡大を求めている。

(3) 調印された経済協力文書

共同声明と同時に両国首脳が調印した29文書のうち経済協力関係の主要な文書は次の10件である。

ロシア連邦の特別経済地域総局(経済発展貿易省外局)と中国商務省との協力覚書

ロシアと中国の財務省対話体制の創設に関するロシア財務省と中国財務部間の了解事項に関する覚書

輸出入貨物輸送の大重量コンテナの相互利用に関する(株)ロシア鉄道と中国鉄道省との契約

投資拡大の協力に関する協定

石油分野の協力充実のためのロシア及び中国の領域に共同出資企業設立の基本原則に関する(株)ロスネフチと中国石油天然気総公司(CNPC)との協定

(株)トランスネフチと中国石油天然気総公司(CNPC)との議定書

ロシア連邦から中国に対する電力供給プロジェクトの技術経営評価の全面的な作業に関する(株)ロシア統一電力網と中国国営電力会社との協定

天然ガス供給に関する(株)ガスプロムと中国石油

天然気総公司(CNPC)との覚書

2008年オリンピック競技の国際衛星放送組織に関する連邦公社「宇宙通信」とChina Netcom(Group) Company Limited との協力覚書

S.ペテルブルグ市行政庁と中国輸出入銀行及び「バルト海の真珠」プロジェクトの上海連合海外投資会社との間の戦略的協力に関する協定

ロシアの対中国エネルギー政策

プーチン大統領は3月21日北京でロシア記者団との会見で、ロシアは欧州とアジアと締結し現在有効なすべての契約義務を無条件に履行するが、アジアについては輸出先の多角化を図って安定した新たな輸出市場に進出する、とエネルギー政策について重要な発言をした。また、中国向け天然ガスは東シベリアと西シベリアの2ルートで供給され、東シベリア・ルートには問題はないが、西シベリアからは新設されるアルタイ・パイプラインで供給すると言明した。この中国向けガス供給量は、西シベリアも東シベリアも各ルート年300～400億立方メートル、合計600～800億立方メートルで、予想されていた200億立方メートルを大幅に超える数字である。この大量供給により中国からは最大限の需要を確保し、同時に、欧州がロシア産ガスの輸入を確保するには、アメリカだけでなく中国とも競争をせざるを得ない状況を欧州に認識させた、という極めて重大なメッセージでグローバルな意味があるといわれる。

今回の中口合意は、2005年末以来のウクライナ・ガス価格引上げで始まった米・欧のロシア・ガス供給不安の非難に対応した意味もあった。欧州はロシアに対して毎年50～80億立方メートルの供給増加を要求しているが、IEA(国際エネルギー機構)調査によると、欧州では2004年中に天然ガスの液化工程と輸送中の盗用によるガス損失量が700億立方メートルといわれるほどガス利用・消費システムに無駄が多い。

ロシアはドイツと共同で北欧ガス・パイプラインを着工し、4月下旬メルケル首相が西シベリアのトムスク市を訪問し、プーチン大統領はドイツBASF社、E.ON社の西シベリア・ガス開発参加に

合意した。2007年からEU議長国になるドイツは、EUの東欧・コーカサス政策を変更して中央アジア進出を意図しているため、米中との利害対立が予想される。他方、中国はプーチン大統領訪問の際、中国開発銀行とロシア対外経済銀行、チェチェン共和国政府が住宅建設、インフラ整備、機械工業、石油精製への最大3億ドルの融資協定を調印した。また、4月2～7日北京を訪問したトルクメニスタンのニヤゾフ大統領は中国政府と天然ガス供給・パイプライン建設一般協定に調印した。中国はロシアCISの石油ガス資源をめぐる国際競争の有力なプレイヤーになっているのは明らかである。

結びに代えて ~ 北東アジア経済の展望

北東アジアにおける日中、日韓、日口の経済関係の将来は、中口関係の動向にかなり影響される情勢が起きていることに注目すべきであろう。とくに、「北東アジア」あるいは「環日本海地域」の経済交流には、この地域のロシア領域であるシベリア連邦管区と極東連邦管区の実情を客観的に把握する必要がある。シベリアと極東はロシアの辺境であり、中国国境に近い南部のシベリア鉄道沿線に点在する都市の他は、人口希薄な農村と林野で市場規模が小さい。資源は豊富であるが、市場への輸送コスト負担の他、大川と海洋、森林、凍土、極寒など自然条件は厳しい。送電距離が長いこと電力・居住・暖房コストも高く、通信も交通も不便でインフラ整備が遅れた広大な未開発地域なのである。また、バム鉄道のような不経済な旧ソ連遺産も現存する地域であるため、市場原則をストレートに適用困難であることを忘れてはならない。

この地域の都市に住み経済活動に従事する人々は、常に不利な自然条件に耐えてロシア中央に対する違和感をもちながら、中央の政治的・経済的な影響力と支援に依存して生きている。最近、この状況に変化が見えてきたが、その要因の一つが中国との経済関係であり、とくに国境地域の経済交流と労働力移動による新たな市場形成の可能性である。新たな市場形成への要因には、すでに一部が稼働し始めた

サハリン石油ガス・プロジェクトがあり、また東シベリア・極東の石油ガス資源開発と4月28日に着工された太平洋パイプライン建設工事もある。市場原則が作動しているロシアでは、石油ガス新埋蔵地の開発には市場確保が最重要な課題となり、去る3月の中口首脳会談の中心的テーマとなった。しかし、石油ガス資源開発と太平洋パイプライン建設にはなお数年を要するだけでなく、開発と建設完了後のシベリアと極東の経済規模拡大の展望は定かではない。

現時点で言えることは、中国経済がロシア資源の大規模な市場になる可能性が高く、ロシアも中国との経済関係の密接化を求めていることである。ロシアが石油・ガスの有利な市場を求めて、今後、韓国、中国南部、台湾、東南アジアの他、アメリカ等との経済関係を拡大すると、北東アジア経済の内容が大きく変化することを考えるべきであろう。(2006年5月)